

故 篠田淳司氏 告別 挨拶

本日は、ご多用のところお集まりいただきありがとうございます。ひと言、御礼申したいと存じます。

私は中学の時に、ベートーベンの 9 つのシンフォニーのスコアを見せられて以来、すっかりベートーベンの虜になりました。身長 159cm、頭はボサボサ、理屈っぽい表情、高邁な精神と世俗的な関心が混在し、権力が大嫌いなベートーベンの魂をそのままもらい受けました。ベートーベンは 57 歳の生涯を閉じました。私はそれを目標に生きてきましたが、幸い 10 年も多く生きることができました。

私の後半生は、多くの方々の協力のおかげでかろうじて成り立ってきました。一つは、公共投資ジャーナル社のお世話になったことで、以来 18 年にわたって雑誌編集に携わり、多くの出会いと新たな経験をさせていただきました。

もう一つは、雑誌の取材を通じて知り合った日本工業大学の佐藤茂夫先生や当時は東芝におられた尾園次郎さんらと NPO 法人再生可能エネルギー推進協会の設立に参加できたことです。

その最大の成果が、2011 年東日本大震災後、福島県伊達市に入り、野池達也東北大学名誉教授が仮説としていたメタン発酵による放射性物質の分離を提案させていただき、実証実験が始まりました。これに伴い、今では地域振興に向けて自主組織が立ち上がりました。

また、私が暮らした北鎌倉地域においても、ごみ行政や自然の維持管理などで、地元の方たちと緻密な話ことができました。

いろいろと理屈っぽい話をしましたが、これは私の性分で周りの近い人には、大いに迷惑を掛けたとっております。

特に、38 年を共にしてきた妻美佐子には、何と言ったらいいか分かりません。ふだんから、政治、社会、文化、芸術など、細やかな話をしていましたが、再発胃がんの告知によって一層気持ちが一体化したように思います。

こんな幸せなことはありません。

最後に申し上げたいのは、戦争に向かって着々と手を打っている現政権を許してはいけないということです。

裸の王様同然の機長のコックピットは、私たちが気がついた時には誰にも開けられません。今こそ、一人ひとりがきちっとした意見を述べるべきです。

アイ アム ノット アベ。

以上、ありがとうございます。

(本稿は、病床にあって声が細くなった本人のことばを、奥様(篠田美佐子様)が口述筆記され、告別式当日(2015 年 5 月 6 日)に REPA 代表理事(当時)尾園次郎氏により代読されました。)